

# 市政のここが聞きたい! 一般質問



一般質問は、定例会で議員が議案に関係なく市政全般について市の方針をたずめるものです。

なお、掲載文は質問議員本人の原稿によるもので、各議員の質問と当局の答弁の要旨は次のとおりです。

## 平成二十三年度教育行政方針について

神谷ルミ

**問** 教師力、授業力の向上をどのように図るのかについて。

**答** 確かな授業づくり授業を継続して実施し、一人一公開授業は四年目となり地道ながら教師力、授業力は向上しました。更に全教員の授業内容の充実に努めます。平成二十三年度には「新しい学び」プロジェクト・市町村と東京大学による協調学習研究連携」に高浜市も仲間入りして「協調学習」についての研究も進めます。教師の指導力向上を目指した七つの研究会、研修会は教育現場ですぐに活用できますし、授業の実践を振り返る良い機会になっています。

**問** 心の教育、道徳教育の充実に関する取り組みについて。

**答** 心の教育は教育活動全体で道徳教育に取り組み学校生活、教育活動の場で自分自身や他人との関わり、自然や崇高なものとの関わり、集団や社会との関わりなどの基礎基本を学び、授業等でも

我慢する力や協力する力、身につけるものです。心の教育、道徳教育を充実させるためには家庭や地域の理解と連携が不可欠と考えます。今後も地域で子どもを育てるといふ考え方で心の教育、道徳教育を推進していきます。

**問** 学校経営関係の情報発信力の強化について。

**答** ホームページ等の電子媒体や学年便り等の紙媒体で日常の情報発信に関しては市内の小中学校は進んでいると考えています。しかし、学年、学級、校務分掌間での差はありますし、学校経営に関する情報発信も多くはありません。各学校の管理職の情報発信の取り組みが積極的に行われるように支援していきます。



## 「行政評価システム」について

幸前信雄

**問** 「行政評価システム」と「事業仕分け」の違いは。

**答** 「事業仕分け」とは、国や自治体で行っている事業を「そもそも」必要であるかどうか、必要であるのであればどこがやるのかについて、公開の場で、外部の視点を入れて、最終的に誰の仕事なのかを考えることがその特徴にあげられる。一方「行政評価システム」は、事務事業や事業の単体を評価する事務事業評価から始まり、施策評価や政策評価へと発展し、総合計画に基づく施策体系の階層ごとに評価する手法として確立されてきた経緯がある。「行政評価システム」の対象事業は、総合計画の進行管理を行うことを目的としているため、新規事業だけでなく、既存の事務事業についても、評価対象に含めて考えます。

**問** 具体的な内容と運用は。

**答** 「総合計画の進行管理」に行政評価システムを導入し、市民とともに、総合計画の実行、評価を行います。」

と総合計画の中で謳っており、基本計画の目標を達成するために取り組む主要な事務事業や新規事業である「アクションプラン」には「事務事業評価」を基本計画である施策には、「施策評価」の導入を予定している。事務事業評価の中では、目標達成のためにどのような活動をどれだけ行ったのかを示す「活動指標」、どのような成果があったのかを示す「成果指標」を数値化したものを盛り込んで行きたいと考えている。これ以外にも、「適合性」「効率性」「有効性」などを盛り込むことを検討している。

